

番号	氏名	抱負
131	椎葉 拓郎	昨今の学会の急速な国際化に対し、戸惑いを覚える会員も多いかと思えます。しかしながら、学会のさらなる発展を考えた場合に、国際化は避けて通れないことは明白です。私は地域の会員の皆様と共に学会の国際化、研究活動の推進に尽力する所存です。
132	島崎 洋	私は市中の臨床病院で勤務しており、各種モダリティをローテーションで回りながら業務を行っております。北海道支部で消化管&超音波委員長をさせていただいていますが、『臨床と技術の融合』『撮影も技術、読影も技術』をテーマに、技術学会の世界にも超音波を定着させたいという思いで活動しております。技術学会の活動や研究を通して、市中病院のローター技師のレベルアップに寄与したいと考えております。
133	清水 幸三	大学病院にてMR業務に従事し学術的活動を行ってまいりました。また、日本放射線技術学会会員として本学会の施策の恩恵に与ってまいりました。今後は本学会の公益性や国際化が、会員の利益および公益に資する事により、医療に於ける放射線技術学に関する学術的進歩・発展、および情報発信の中心的組織であり続けるよう、微力ながら本学会運営に貢献したいと思えます。
134	志村 浩孝	私は、日本放射線技術学会東北支部の職員として東北支部役員会に10年近く携わっており、東北支部の運営について熟知しているつもりです。職員と平行して東北支部のHPの管理運営も行ってきました。また、5年前に医用画像情報専門技師の資格を取得し、去年から東北支部の医療情報の学術企画担当委員にも任命されました。今後東北の医療情報関係の発展のため代議員に立候補したいと思えます。
135	下野 哲範	医療現場の最前線で業務を行う私達の議論は直接患者さんに届きうるものであり、その責任は重大です。情報を発信する側として、常に意識をしなければいけないところであると考えています。時代の流れにスタイルを合わせ、得られた知見を職種間のみならず、多くの施設間で共有し、放射線診療を受ける患者さんへ還元することが私達の役目だと考えています。よろしく願い申し上げます。
136	白石 順二	これまで常務理事として4年間、その間、企画委員長、学術委員長として、本学会の学術団体としての在り方を見直し、世界における放射線技術科学のリーダーシップをとるための体制を構築するために努力してきました。道はまだ半ばですが、その成果は少しずつあらわれてきていると思えます。次の世代の皆さんに素晴らしい形で本学会を引き継げるようになるまで、もうしばらく、学会のために尽力させていただきたいと思っております。
137	城生 朋顕	放射線に関する学術研究を進める上でこの日本放射線技術学会は学術団体として必要不可欠となっている。ただ、公益社団としての社会への貢献、公平性の面、全国という視点から見ると、代議員の選出の関係もあり、一部の地域や中央部だけの意向だけが反映されるのは望ましいことではないと思われる。九州から見ると代議員自体が数名しかいない現状から、なかなか意見等が反映し難い状況もあると思うため今回立候補する次第である。
138	神宮司 公二	診療放射線技師として勤務し、その多くの時間を核医学部門に携わり情熱を注いでおりました。近年では一般撮影部門を経て、現在は救急・IVR部門を担当しております。また医療情報分野にも興味があり、自己研鑽に努めながら活動しております。今回、微力ながらも平成29・30年度の代議員として活動することにより、学会の発展ならび会員の皆様の一助となり、延いては患者さんの利益に貢献できればと考え立候補いたしました。
139	杉森 博行	この度、日本放射線技術学会平成29・30年度代議員に立候補させていただきます。北海道支部所属、北海道大学杉森です。私の現在の本学会との関わりは北海道支部において平成25年度より副支部長、平成27年度より本部プログラム委員会倫理審査担当委員を務めさせていただいております。若輩ではありますが、みなさまとともに放射線技術ならびに学会の発展に貢献していきたいと考えております。よろしく願い申し上げます。
140	祐延 良治	大阪大学附属病院医療技術部放射線部門 祐延(すけのぶ)と申します。情報をうまく活用できるか否かが良質な医療の提供に欠かせないものになりました。日常の業務で困っていることや、こんなことがしたいといった夢を語りながら、皆さまと一緒に成長するための学会に生まれています。気軽に参加できるようアンテナをいっぱい広げて皆さまのご期待に応えます。どうぞよろしく願いいたします。